

恩送り

岡山県 琴浦南小学校 4年 浅井 直樹

ぼくは、夏休みに家族でサッカーを見にいきました。とても楽しかったけれど、とても暑くて、人もたくさんいたのでつかれました。

帰りのバス停が大行列で、乗るのに30分くらい待ちました。だからぼくは、クタクタで足がとてもいたくなっていました。ぼくはバスに乗りこむと、急いで席にすわりました。バスにはどんどん人が乗ってきて、あっという間に満員になりました。ぼくはすわられてラッキーだと思いました。

ふと周りを見ると、近くに女の人が立っていました。ギューギューの満員バスの中で、赤ちゃんを抱っこしていてとても重そうでした。ぼくはその女の人を見て大変そうだな、と思いましたが、ぼくもつかれていたし、そのまますわって見て見ぬふりをしました。

そして、少しはなれたところに、弟を抱っこして立っているぼくのお母さんを見つけました。すると、知らないおじさんがぼくのお母さんに話しかけました。

「この席どうぞ。」

そう言うとおじさんは、笑顔で席をゆずってくれていました。

ぼくはそれを見たとき、ハッとしました。そして、さっき見て見ぬふりをしてしまった自分の行動をはずかしく思いました。それから、ずっと前に学校でもらった学年だよりに書いてあった『恩送り』を、お母さんが読んでくれたことを思い出しました。

『恩を受けた人に直せつ返すのは恩返し。恩送りは、受けた恩を直せつ相手に返すのではなく、周りの誰かに送るという意味。送った恩はめぐりめぐって、恩を受けた人や家族や友人に返ってくる』。

ぼくは、はずかしかったけど勇気をふりしぼって、赤ちゃんを抱っこした女の人に言ってみました。

「この席どうぞ。」

するとその女の方は、とてもうれしそうな顔で、

「ありがとう。」

と言いました。そしてバスをおりるときもまた、

「ありがとう。」

と言ってくれました。赤ちゃんもなんだか笑っているように見えました。

ぼくは、いつの間にか足のいたみもわすれていました。ぼくは帰って、

「つかれたー。」

と、ふとんにたおれました。でもそれ以上に、心がホカホカしたうれしい気持ちが残っていました。あのとき勇気を出して本当によかったと思いました。

『恩送り』のめぐり合わせが、たくさんの人を幸せにするということを信じて、これからもたくさん恩送りをして、うれしい気持ちになりたいです。